

《文しょうもんだい 4》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえ
を 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえ
よう。

よるに なって おとうさんが かえって き
ました。おとうさんは、

「とちゅうで と 雨が ふって きたよ。」
と いいました。

雨が ふって きたと きいて、ぼくは てる
るぼうずをつくる ことに しました。

あしたは えんそくです。どうか はれますよ
うに。

(1) □に入る ことばを アから ウから え
らぼう。

ア ぽつぽつ イ しんしん
ウ ひゅうひゅう

(2) あしたは なにが ありますか。

【こたえ】

(1) ア

(2) えんそく

【かいせつ】

(1) は 雨が すこし ふって きた ようす
を あらわす ことばが 入ります。

(2) は 文しょうの つぎの ばしょに かかれ
ています。

よるに なって おとうさんが かえって き
ました。おとうさんは、

「とちゅうで ぽつぽつと 雨が ふって きたよ。」
と いいました。

雨が ふって きたと きいて、ぼくは てる
るぼうずをつくる ことに しました。

(2) あしたは えんそくです。どうか はれますよ
うに。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

日本^{にほん}ぜんこくの 大^{おお}きな まちを はしる、一^{いち}ばん はよい れ^{しゃ}つ車^{しゃ}は しんかんせんです。

しんかんせんには、「のぞみ」や 「こだま」という 名^なまえが ついて います。「こだま」よりも 「のぞみ」の ほうが うんと はやく はしれます。

ぼくは、なつ休^{やす}みに あこがれの 「のぞみ」に のって おじいちゃんの いえに いきます。いまから して います。

(1) しんかんせんの 名^なまえを 二^{ふた}つ みつけて かこう。

(2) 日本^{にほん}ぜんこくの 大^{おお}きな まちを はしる、一^{いち}ばん はよい れ^{しゃ}つ車^{しゃ}は なんですか。

(3) 「のぞみ」と 「こだま」は どちらが はよいですか。

(4) ☐ に 入^{はい}る ことばを アから ウから えらぼう。

ア わくわく
イ ぶるぶる
ウ じんじん

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ぼくと おにいちゃんが こうえんに いったら、木の はが と おちて きました。

「この はっぱを あつめて 火^ひを つけたら、たき火^びが できるよ。」

と おにいちゃんが ぼくに おしえて くれました。ぼくと おにいちゃんは、はっぱを しょうけんめい あつめました。そして おかあさんを よんで、みんなで たき火^びを しました。

(1) ぼくと おにいちゃんは どこに いったのですか。

(2) おにいちゃんが ぼくに おしえて くれたことは なんです。 ☐ に ^{はい}入る ことばをかこう。

を あつめて

を つけると

が できると いう こと。

(3) ☐ に ^{はい}入る ことばを アから ウから えらぼう。

ア ざあざあ
イ ぽつぽつ
ウ ひらひら



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

日本^{にほん}の れっ車^{しゃ}の 中^{なか}で、一^{いち}ばん はやい れっ車は しんかんせんです。しんかんせんは はやいだけで なく、とても あんぜんです。

しんかんせんには、「のぞみ」や「こだま」という 名^なまえが ついて います。「こだま」よりも「のぞみ」の ほうが うんと はやく はしれます。

(1) 日本^{にほん}の れっ車^{しゃ}の 中^{なか}で 一^{いち}ばん はやい れっ車は なんですか。

(2) しんかんせんは どのような れっ車ですか。
□に 入^{はい}る ことばを かこう。

しんかんせんは

だけで なく、とても です。

(3) しんかんせんの 名^なまえを 二^{ふた}つ みつけて かこう。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ぼくと おにいちゃんが こうえんに いくと、
たくさんの はっぱが おちて いました。

「この はっぱを あつめて 火^ひを つけたら、
たき火^びが できるよ。」

と おにいちゃんが いったので、ぼくは いっ
しょうけんめい はっぱを あつめました。そし
て おかあさんを よんで、みんなで たき火を
しました。からだが ぽかぽかになりました。

(1) おにいちゃんが ぼくに おしえて くれた
ことは なんですか。 □ に 入^{はい}る ことばを
かこう。

を あつめて

を つけると

が できると いう こと。

(2) たき火を した 人は だれですか。 三^{さん}人
みつけて かこう。

--	--	--

(3) たき火を すると、からだは どんな ふう
になりましたか。

に なった。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

おこめは わたしたちの くらしに かかせない ものです。おこめは そのまま たべる だけでは なく、いろいろな ものに つかわれて います。

、おだんごや おせんべいなどの おかし。すや みりんなどの ちようみりよう。ほ かに は せっけんなどに つかわれる ばあいがあります。

おこめは、ずっと おかしから 日本^{にほん}に あります。おかしの 人も おこめを たべて いたの です。

(1) おこめは どんな ものに つかわれて いますか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

や

などの おかし。

などの ちようみりよう。ほかには

ばあいがあります。

(2) おこめは いつから 日本^{にほん}に ありますか。

(3) □に 入^{はい}る ことばを アから ウから えら ぼう。

ア でも
イ たとえば
ウ だから

などに つかわれる

や



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

おこめは いろいろな ものに つかわれて
います。たとえば、おだんごや おせんべいなど
のおかし。すや みりんなどの ちようみりよ
う。ほかには せっけんなどに つかわれる ば
あいが あります。

ですから、おこめは わたしたちの くらしに
かかせません。おこめが ないと とても こまっ
て しまいます。

(1) なぜ おこめは わたしたちの くらしに
かかせないのでですか。□に ^{はい} 入る ことばを
かこう。

おこめは

に

いるから。

(2) おこめは どんな ものに つかわれて い
ますか。□に 入る ことばを かこう。

などの おかし。

や

などの ちようみりよう。ほかには

や

ばあいが あります。

などに つかわれる

(3) おこめが ないと わたしたちは どうなっ
て しまいますか。

とても

しまう。



ななむかえくえに ちちのせん。

5

レベル

一 ひらがなを ななむかえに じふばを つく。

か し な は

ななむかえ から じふばを じふばを

--	--	--	--	--	--

く い せ ひ

ひのけの うつたせんに じふば じふばから じふ

--	--	--	--	--	--

け り い せ

うたの じふば じふばから じふ

--	--	--	--	--	--

く い せ じふば

うたの じふばから じふば じふば じふ

--	--	--	--	--	--

す か い せ

からかえに じふばから じふばから

--	--	--	--	--	--

う ち じふ

じふばから じふばから

--	--	--	--	--	--